

す雨が降りますと其腐敗致しましたものに雨水が
かゝりまして不潔な汗が地面の中にしみ込みます
からそれを防ぐので御座います

廁は不潔になり易き處でございますから拂塵箒
雑巾箒を別に供へおさまして掃除を怠らないやう
にしなればなりません

日本では昔から夏冬の二度或は歳の暮に煤掃き
と申しまして家の中の道具疊建具まですつかり出
しまして大掃除を致します是は誠によき習慣でござ
います併し此大掃除を今一層度敷を殖やしまし
て學校などにて致しますやうに二月或は三月に一
度位日を定めて致しましたならば宜しからうと思
ひます

昨日といひ今日と暮らしてあすか川

流れて早き月日なりけり

今 昔いろは料理

石井泰次郎

(ぬの部)

ぬたあへの拵やう 古法

酒のかすを能く播盆にて摺て、大豆の粉を入れ、
花かつをを摺りて掻まぜて、魚に酢をかけてあへ
るなり、何の魚も同じ仕方にてよし

又は大豆の粉なき時は、けしか、胡麻かを入れて、

糟と酢と酒にてあへる

又青くするには、蓼なとすりまぜてよし

大きな魚は中うち中のほねつぎの身を焼て入るゝ

もよし

○花かつをとほ、かつぶしを正身ばかりにして、
小刀にて細くけづりたるものなれど、こゝにては
たい鉋にてけづりたるをすりばちに入てすりたる

なり

同新法

葱を能くわらひて剖きて寸ぐらゐに切て、若布を水にあらひ湯にてもどし、みち(すぢの事)をとり去り指にて摘みて小さくして、まぐろを能き程に切て、以上の三種を醋に漬けおき、よき味噌に砂糖を入れまぜて、すりばちにて能くすり、右の三種を酢よりあげて、酢をきりて、これに入れてあへるなり

(るの部)

るりやき鯛の拵へかた

鯛の切身に、玉子の黄味をねりてやくなり、

或母の日記 (第四回)

無名氏

明治三十三年九月三十日生れの女子生後八九ヶ月間の記事

五月二十日 澤庵漬をあづけて下に落すも拾ひ得

るようになれり。眠りたきときは兩手にて目をこ

することを覺えたり。

五月二十九日 乳母車を買ひ求め日毎にのせある

く、此頃より膳の上にある飯椀を持ちあげて口に

あてるやうになれり。同じ頃眼少し痛み四五日に

してなほれり。今迄は知らぬ人を見るときは泣く

癖ありしが、此頃よりあまり泣かぬやうになれり。

六月五日 母につれられ糸魚川町に行き知るべの

もとに二泊してかへれり、町よりかへりひるねに

父のよみをる雑誌をほしがれり、夜古雑誌一冊與

へたれば喜びてもてあそぶ。